今週の為替相場見通し（2017年10月23日）

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	（円）		111.65 ～ 113.57	113.52	112.00 ～ 115.00
ユーロ	（ドル）		1.1730 ～ 1.1858	1.1785	1.1650 ～ 1.2000
（1ユーロ=）	（円）		131.68 ～ 133.97	133.73	132.00 ～ 136.00
英ポンド	（ドル）		1.3087 ～ 1.3312	1.3190	1.3050 ～ 1.3250
（1英ポンド=）	（円）	*	147.78 ～ 149.83	149.73	148.00 ～ 151.00
豪ドル	（ドル）		0.7808 ～ 0.7893	0.7817	0.7700 ～ 0.7950
（1豪ドル=）	（円）	*	87.78 ～ 89.00	88.74	86.50 ～ 90.50

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替営業第二チーム　森谷 友一

（1）今週の予想レンジ：　112.00 ～ 115.00 円

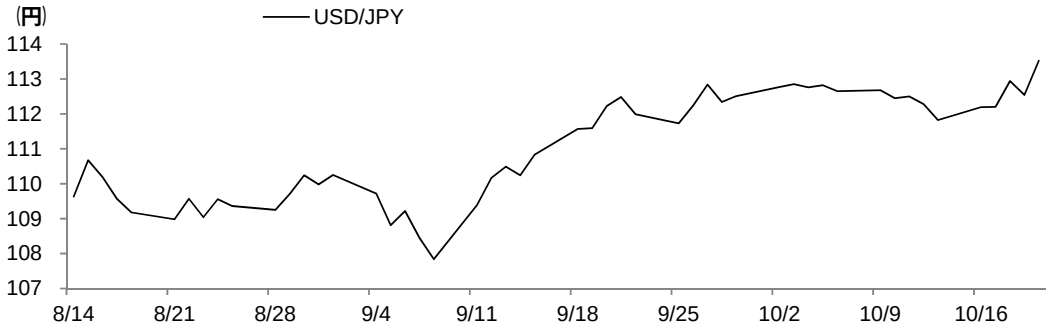
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は上昇する展開。週初16 日は111 円台後半でオープン。前週末のドル売りの流れを引き継ぎ、一時週安値となる111.65 円まで下落。しかし、トランプ大統領が次期FRB 議長の候補として、タカ派とされるスタンフォード大のテイラー教授を高く評価していると報じられるとドル買いが強まり、112 円台前半まで反発。17 日は米9 月輸入物価指数が予想を上回ったことなどを背景に112 円台半ばまで値を上げたが、米金利低下を受けて112 円台前半まで下落。18 日は世界的に株高が進行する展開となり円売りが強まると113円台前半まで上昇。しかし、翌日のイエレンFRB 議長とトランプ米大統領の面談を控えて様子見ムードが拡がり112 円台後半まで小緩んだ。19 日はスペイン政府がカタルーニャ州の自治権停止を示唆するとリスクオフムードが拡がり、112 円台半ばまで急落。さらに米9 月先行指数が予想を下回ったことなどを背景に112 円台前半まで続落したが、米株が下げ幅を縮小すると112 円台後半まで買い戻された。13日は米上院が2018年度予算決議案を可決したと伝わると米金利が上昇しドル買いが進む中、113円台を回復。その後も堅調な値動きが続き、一時週高値となる113.57まで上昇した後、113円台半ばで越週した。

今週のドル/円相場は方向感に欠ける揉み合い推移を予想。先週は米上院において2018年度予算決議案が可決されたことを受けてドル買いが進行。引き続きドル/円のサポート要因となりそうではあるが、税制改革については、現段階では期待感が高まったに過ぎず、実現に向けてハードルは多数残されていることを勘案すると、ここから一段のドル大幅上昇をもたらす材料とはなり難いと考えている。11月3日までに決定される見込の次期FRB議長については、パウエルFRB理事が有力との見方が広がっている。ややハト派とされる同氏が指名された場合、或いはその思惑が高まった場合にはドル売りの反応が想定されるが、現行の金融政策から大きな変化はないとの見方からその反応は一時的なものとなりそうだ。最もタカ派とされるテイラー氏の可能性が高まる場合には大きくドル買いが進行する動きを想定しておきたいが、次期ＦＲＢ議長関連の材料についてはヘッドラインを受けて上下すること局面こそあっても、基本的には明確なトレンド形成につながるものとはならないと予想する。また、週末に行われた本邦衆議院選挙では自民党と公明党が合わせて3分の2を上回る議席を獲得。株高、円安の初期反応が想定されるが、概ね事前予想通りの結果であったことを勘案すると、ドル/円相場に与える影響は一時的となると予想する。

（3）先週までの相場の推移

先週（10/16～10/20）の値動き：　安値 111.65 円　高値 113.57 円　終値 113.52 円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第二チーム　山本 一暁

⑴ 今週の予想レンジ：　1.1650 ～ 1.2000　132.00 ～ 136.00 **円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

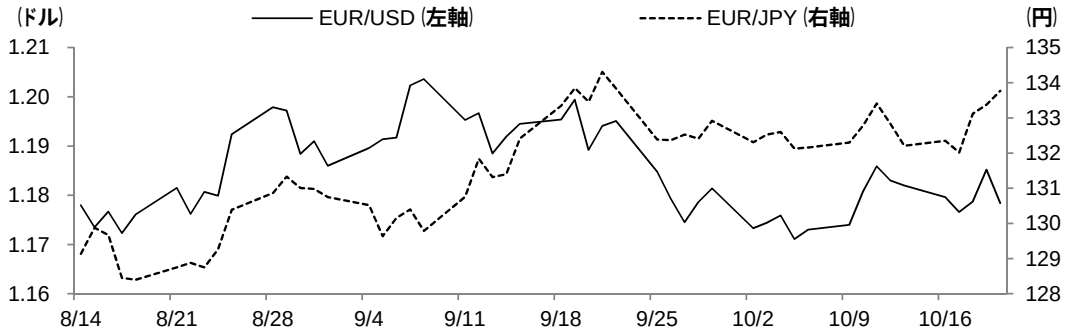
先週のユーロは対ドルでは週前半に下落したが後半に下げ幅を縮小する展開となり、対円では週半ばから上昇した。週明け16日、1.18台前半でスタートしたユーロ/ドルは、オーストリア総選挙で右派が第一党になったことや、前週に報じられた「10月のECB政策理事会では、資産買入減額（300億ユーロ）および延長（9カ月）で大筋合意」とのヘッドラインがハト的に捉えられたことを背景にアジア時間から売りが先行。1.18を割れ、1.17台後半に軟化したが、その後は下げ渋り北米時間は1.18近辺で揉み合い。17日、スペイン・カタルーニャ地方独立を巡る懸念が根強い中、ユーロはアジア時間よりじり安となり、さらに良好な米経済指標の結果を受けてドル買いが強まると、ユーロドルは一時1.1736まで下落した。16、17日のユーロ/円は、ユーロ/ドルが下落する一方でドル/円が底堅かったため、132円を挟んで方向感なく上下した。18日、米金利上昇を受けドル買い優勢となると、ユーロ/ドルは週安値となる1.1730まで下落する場面も見られたが、最高値更新を続ける日米株式相場を横目にユーロ/円が132円近辺から133円まで上昇したことにサポートされ、1.17台後半まで買い戻された。19日、「スペイン政府、カタルーニャ州の自治停止プロセスを開始へ」とのヘッドラインにユーロ/ドルは1.18台前半から1.1768まで、ユーロ/円は133円半ばから132.48円まで急落。但し、ユーロ/ドルはすぐに買い戻され1.18台回復すると、米金利低下を受けたドル売りに1.1858まで反発した。同時に、ユーロ/円も133円台半ばを回復した。19日、米税制改革への期待感からドル買いが優勢となると、ユーロ/ドルは1.18台半ばから1.18ちょうど近辺まで反落。一方で、ユーロ/ドルの下落よりドル/円の騰勢が勝ったことからユーロ/円は一時、134円手前まで上昇し越週した。

今週の、ユーロ相場は膠着後、底堅い展開を予想する。今週は26日（木）のECB政策理事会に最も注目が集まる。そのため、そこまでは様子見姿勢が強く、ユーロ相場は膠着感の強い値動きとなろう。同会合では現行の資産買入プログラムの2018年1月以降の運用が決定される予定。事前報道が錯綜し、市場コンセンサスが明確になっていないだけに、内容発表前後では荒い値動きが予想される。ただ、量的緩和の縮小がスタートする意義は大きく、欧州金融政策の正常化に対する期待感からユーロ相場の堅調推移をメインシナリオと考える。それに対するリスクシナリオは、資産買入プログラム縮小が市場の期待する規模を大幅に下回る場合、ドラギ総裁会見等でのユーロ高牽制コメントが出される場合、カタルーニャ自治政府を巡る不透明感が強まる場合等が挙げられる。主要な経済指標としては、23日（月）欧州圏10月消費者信頼感、24日（火）ドイツ10月IFO景況感指数等が発表される。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/16～10/20）の値動き：

（対ドル）	安値 1.1730	高値 1.1858	終値 1.1785
（対円）	安値 131.68	高値 133.97	終値 133.73



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　本多 秀俊

⑴ 今週の予想レンジ：　1.3050　～ 1.3250　　148.00　～ 151.00　**円**

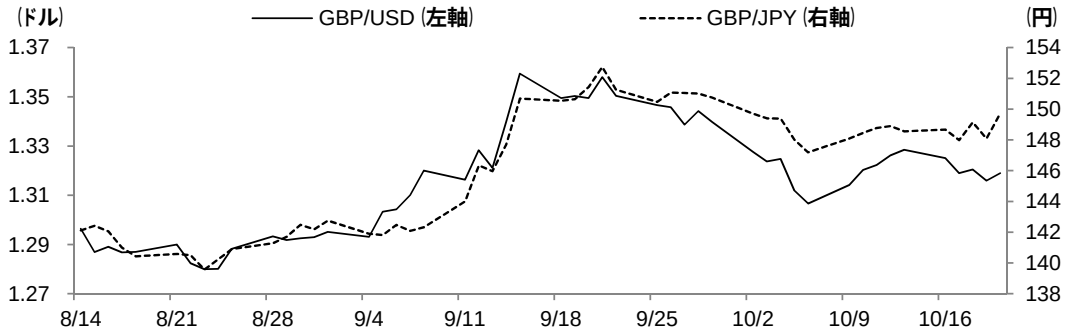
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、週引け前に若干の反発を見たものの、対ドル、対ユーロではほぼ一方的な軟調推移で水準を切り下げ。対円では148円台を二往復する出入りの激しい値動きを見せたが、振り返って見れば比較的狭い値幅における横這いにとどまり、最終的には若干水準を切り上げた。17日発表された英9月CPIは、前年比+3.0%と英中銀の誘導目標の上限に達した。この数字は市場の予想通りであったが、その後英中銀金融政策委員会の二委員（ラムズデン副総裁、テンレイロ委員）が英議会証言で利上げに慎重な姿勢を示したことで、ポンドは若干水準を切り下げた。19日のポンド下落は、同日発表された英9月小売売上高が市場予想を下振れたのを要因視した値動き。この局面、ポンド/円は149円台半ばから148円割れ水準までの反落を見せたが、この値動きは前日進んだ（世界的な株高を背景とした）円安の反動が値動きを増幅した感があった。20日のポンド反発は、前日から開催された英のEU離脱を協議するEUサミットで、将来協定の交渉を始める為の前提条件である離脱協定に関しては「十分な進展」は得られていないと断じられたものの、英を除くEU加盟27か国で将来協定（貿易協定）の内部調整を開始するとしたことが好感されたのではないか。今後（12月までに?）離脱協定が「十分な進展」を見せれば、すぐさま具体的な貿易交渉が始められるとの期待感がその背景にあったものと思われた。

今週の英ポンド相場は、方向感の交錯した横這いを予想。17日のポンド下押しは、英中銀金融政策委員会の一部に利上げに消極的な委員がいる事実を材料にした。とりわけラムズデン副総裁が利上げに否定的なのは間違いないだろうが、所詮は9人いる委員のひとりに過ぎない。委員会の大勢が（たとえ必要はないとしても実際問題として）11月2日の25bp利上げに傾いている状況に変わりなく、その限りであればポンドの反発を見込める経緯だったと読めよう。対照的に、英を除くEU加盟27か国が始めた英との貿易協定の内部調整を好感してポンドを買った値動きにも違和感は強い。20日のファラージュ元英国独立党党首の発言のように、英側からはメルケル独首相（=独自動車業界からの圧力）に対する期待が強いようだが、考慮すべきが経済だけならロシアに対するEUの経済制裁もとうの昔に解除されていたものと考えられる。EU域内の4つの移動の自由（人、物、金、サービス）の保障は、停戦合意の順守に劣らず重要な政治的理念であり、英の望むような「良いとこ取り」がEUに認められる可能性は極めて低いはず。そもそも、交渉相手（英）を欠いた内部交渉の段階で、交渉相手が望むような内容が取りまとめられるなどと都合の良い期待をするのは、あまりにも楽観が過ぎるのではないか。英経済指標では25日（水）の英7～9月期GDP速報値の発表が興味深い。市場は前期から横ばいの前年比+1.5%程度の成長を見込んでいるようだが、既に発表された月次経済指標は、生産（鉱業生産、製造業生産など）が（4～6月期との比較で）上振れている一方、消費（小売売上高）は下振れと交錯している。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/16～10/20）の値動き：　（対ドル）安値 1.3087　高値 1.3312　終値 1.3190
（対円）安値 147.78　高値 149.83　終値 149.73



(資料) ブルームバーグ

4．豪ドル

為替営業第二チーム　鶴田 涼平

⑴ 今週の予想レンジ：　0.7700　～ 0.7950　　86.50　～　90.50　**円**

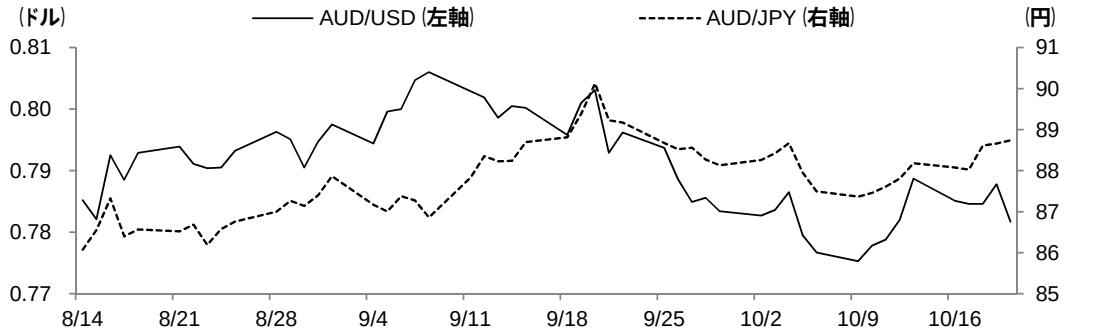
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、下落する展開。週初16日、0.78台後半でオープンした豪ドルは、特段目立った材料に乏しい中で横ばい推移。その後、米長期金利が小幅に上昇すると豪ドルもじり安の展開となり小幅に値を下げる。17日、この日公表された豪州準備銀行（中央銀行、RBA）の10月会合分の議事録では、RBAが他国の金融引き締めの動きに追随しない姿勢が改めて明らかとなり、特段のサプライズ感もなく市場の反応は限定的。その後、米9月輸入物価指数が市場予想を上回ったことやNYダウ平均が節目となる23,000ドルを上抜けたこと等を背景に、ドル買いが強まり豪ドルは0.78台前半まで下落。18日、堅調なアジア・オセアニア株を背景に豪ドルは0.78台半ばまで小幅上昇するも、海外時間に入り米長期金利が上昇する中でドル買い優勢相場となり0.78台前半に軟化。19日、この日発表された豪9月雇用統計は雇用者数が市場予想の15.0千人を上回る19.8千人と良好な内容となったことで豪ドルは0.78台後半まで急進。その後一時0.78台半ばまで弱含む場面がみられるも、米長期金利の低下を背景にドル売りが強まり0.78台後半での底堅い展開。20日、米上院にて2018年度予算決議案が可決され米税制改革に対する期待感が高まると、ドル買い優勢の展開となり豪ドルは一時0.78台後半から0.78台前半まで急落。その後0.78台半ばまで値を戻すも、発表された米経済指標が良好な内容となると再びドル買いが強まり、豪ドルは0.78台前半で下落する展開。その後も上値の重い展開が続き、結局豪ドルは対ドルで0.78台前半、対円では88円台後半で越週した。

今週の豪ドル相場は上値の重い展開を予想。利上げ期待を背景に堅調推移が続いた豪ドル相場も足許ではその力強さも一巡してやや上値重く動意に乏しい展開が続いている印象。先週の豪ドル相場は豪ドル相場のドライバーとなるような材料に乏しい中で小幅なレンジ内での推移に留まる展開となったが、今週もその流れを引き継ぎ方向感に乏しい展開が基本線となりそうだ。先週発表された10月会合分のRBA議事録では、経済見通しへの自信を強める一方で引き続き賃金とインフレが抑制されているとの認識が明らかとなり、他国の金融引き締めの動きに追随しない姿勢が改めて表明された。豪9月雇用統計では12か月連続の雇用者数増加となり堅調な労働市場の改善が示唆されたものの、8月に発表された賃金価格指数は4期連続の低水準が続いており、RBAが引き続きのハト派姿勢を続け賃金とインフレの伸び悩みが続く中では、再び利上げ期待を背景に豪ドル買い優勢地合いとなる展開は足許で考え辛い。また、米国では底堅く推移する米金利や過去最高値を連日更新する米株等を背景にドル相場の堅調推移が続いており、先週は上院にて2018年度予算決議案が可決され税制改革に対する期待感を煽る展開となった。加えて次期FRB議長人事を巡ってはよりタカ派な候補者が指名されることに対する期待感も高まっており、堅調なドル相場が豪ドル相場の重石となるだろう。豪ドル相場のドライバーとなるような材料に乏しく、堅調なドル相場が予想される中で今週の豪ドル相場は動意に乏しく上値の重い展開となりそうだ。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/16～10/20）の値動き：　（対ドル）安値　0.7808　高値　0.7893　終値　0.7817
（対円）安値　87.78　高値　89.00　終値　88.74



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。